

行政が“婚活”支援を

町長 地域全体で取り組み 町としても支援したい



問 農業問題について

食は命、食は農といわれるように、農業は私たちの命を支えてくれる産業であり、農業を守ることは私たちの命を守ることであり、すべての産業の根幹をなすのが農業である。

自然と向き合い、寄り添って生きていかなければならない農業にとって大変な猛暑となった本年は、お米をはじめ、畑作農家やハウス栽培農家は大変な被害であり、国や県も支援がない中で町として独自の支援を考えよ。

奥出雲町の耕地率はわ

ずか7.2%であり、全面積の84%が山林であるにもかかわらず耕作放棄地が拡大している現状は悲しい限りである。

何年か前までは作られていた田んぼであり畑は宝の山です。

耕作放棄地なくし隊とか、雇用の創出をはかるためにも若い力を入れて農地を守っていくことが重要である。

開発農地も建設業者等の産業分野への参入もあり利用拡大が進んでいると思われるが、例えば市民農園的に開放していくとか、近隣市町村に貸し出す等、土地の信託銀行を設置して、作りたい人、借りたい人や貸したい人の仕組みづくりが必要である。

答 系原農業振興課長

平成20年度が160ha、平成21年度が189haと増加しており、国の耕作放棄地再生利用交付金を利用し、水田80aを復旧したが、農業委員会でも耕作放棄地の解消は重要な活動であり、国の補助金等活用し、できるだけ復旧して農地にしたい。

開発農地も今年度までに7社で43.1ha、農業生産法人が6社で15.8haの参入となり、要活用面積は51haまで減少した。

答 土地銀行といいますが土地を集約化して生産意欲のある方に貸し出しするなど、土地改良区と協議しながら開発農地の自己負担金の焦げつき、未償還問題にも積極的に取り組んでいきたい。

問 結婚問題について

若者の未婚化が進んでいる中で、雇用環境の悪化や価値観の多様化など結婚しない理由はいろいろですが、やはり少子化は結婚問題が大きくかわっている。

現在、行政が婚活を全面的に応援する市町村が増えており、結婚したい人を応援する町として、ブライダル支援センターを設置し、男女の出会いを提供したり、ファッションや会話術など応援や見合いに必要なノウハウを身につけられるセミナーを開催し、行政が旗振りをしていく考えは。

答 ブライダル支援とか

婚活支援については、行政は前面に出るよりも婚活支援に参加できるように条件整備、後方支援をし、地域全体で若い人の出会いが実現できるようにしたい。

問 街路灯及び防犯灯設置について

防犯灯設置の要望取りまとめが行われ、多数の設置希望がありながら、ゼロ回答を受けた自治会もあり、浜田市での事件もある。何より最優先される事業である。

また三成本町の街路灯は歩道の前方部に設置しており、大型バスなどの交差が困難であり、冬季の除雪も問題と思つが。

答 小倉総務課長

学校からは21ヶ所、自治会からは27ヶ所の要望があり33ヶ所について実施し、今後すべての要望箇所に設置していきたい。

答 三成地区の街路灯整備は、まちづくり委員会で検討され、もつと人に優しい、町に優しい、環境に優しいという都市街路としての性格を持っている。